

アルカリッヂ [NDX-303LMW] 施工説明書

※この「施工説明書」に記載されていない方法で施工されて、故障・事故が生じた場合は、当社としては責任を負いかねますので、ご了承ください。

※本施工説明書や、同梱の「取扱説明書」、「付属品」は、必ずお客様にお渡しください。

●設置は、この施工説明書に沿って確実に行ってください。
設置に不備があると、火災・感電・事故の原因になります。

●飲料水に合格した水(水道水など)以外は使用しない。

●温泉水、井戸水などの異物を含む水にはご使用になれません。

●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしない。また重いものを載せたり、挟み込んだりしない。

●常に給水側(電磁弁手前)は、特に水漏れがないように確実に施工する。水漏れが起こること、大きな補償問題になります。

●濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない。感電の原因になります。

●本器は整水器本体、カートリッジ、カラン(電子水栓)及び同梱部品(施工用)をセットで使用する。

●設置場所は、下記条件を考慮し、お客様とご相談の上、設置してください。
・各部材は、既設の室内配管などにぶつからない場所に設置してください。
・整水器本体、カートリッジ、カラン(電子水栓)が付属品で設置できる場所に設置してください。(付属ホースの長さを考慮してください)。
・コンセントの抜き差し、止水栓の開閉(調整)が可能な位置に設置してください。
・カートリッジ交換、カルシウム添加が容易に行える場所に設置してください。
・各ホースは折れ曲がったり、山形配管にならないようにしてください。
●可能給水管圧力は、0.1~0.5MPa(1.0~5.0kgf/cm²)です。
但し、付属の減圧弁で、0.2~0.25MPa(2.0~2.5kgf/cm²)に減圧が必要です。

●整水器本体や、カランの設置場所は、お客様とご相談のうえ設置してください。

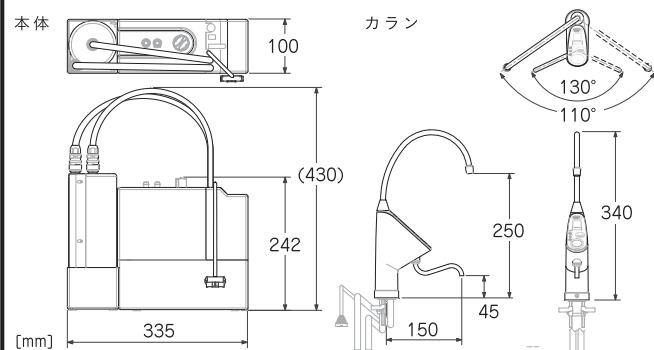
●カラン(電子水栓)の取り付け可能な天板の厚さは、8~30mmまでです。

●工事の際、流し台の構造や材質などの確認が必要になった場合は、キッチンメーカーへお問い合わせください。

●配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の条例規定に準じて行ってください。

●ウォーターハンマーが発生する場合は、市販の防止器等を設置してください。

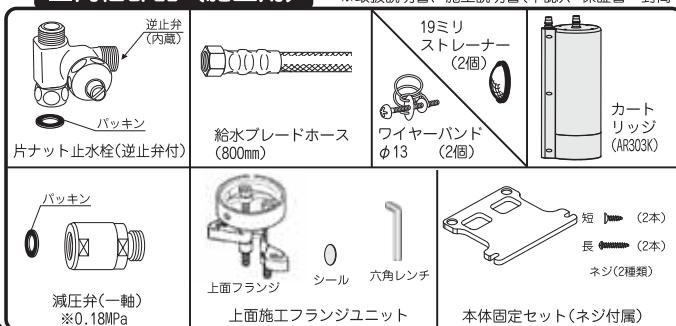
注意



同梱部品(施工用)を、先にご確認ください！

■同梱部品(施工用)

※取扱説明書、施工説明書(本誌)、保証書・封筒



手順-1 本体の設置場所を決める

●シンク下(流し台下)のフロアユニットに、設置してください。
このとき、カラン(電子水栓)の取付位置を考慮してから設置してください。

●給水ブレードホースの長さ約800mm、カランの電解水素水ホース、サンホースは約1,000mmです。長さに注意して位置を決めてください。(手順-5、-10)

注意

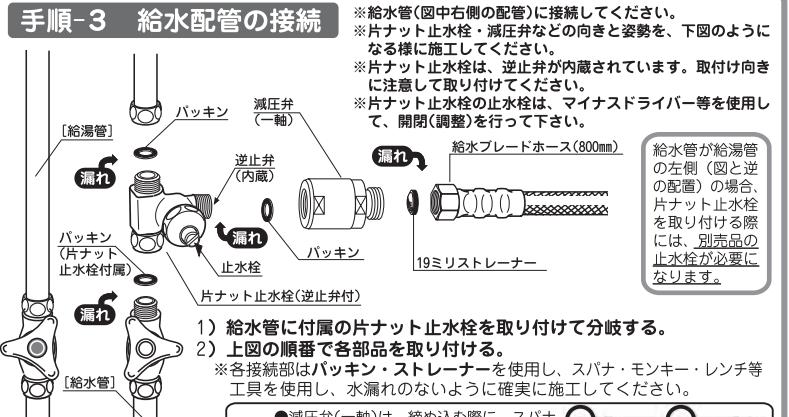
- 整水器本体が水平な位置になるように設置してください。
- 可動式(引き出し式)コンテナの引き出し内部に設置しないでください。
- 付属の「本体固定セット」を使用して設置床面にネジ固定して下さい。

手順-2 コンセントの接続



定格: AC(交流)100V・2.4A・50/60Hz
消費電力: 最大240W

手順-3 給水配管の接続



1) 給水管に付属の片ナット止水栓を取り付けて分岐する。

2) 上図の順番で各部品を取り付ける。

※各接続部はパッキン・ストレーナーを使用し、スパナ・モンキー・レンチ等工具を使用し、水漏れのないように確実に施工してください。

注意

- 減圧弁(一軸)は、締め込む際に、スパナ掛けに注意してください。接続側にスパナ掛けして、締め付け・取外しをしてください。

※分解や、増結めになります。

注意

- 給水圧の高低に関係なく、付属の減圧弁は必ず取り付けてください。取り付けないと、故障や水漏れ事故につながるおそれがあります。
- 片ナット止水栓(逆止弁付)は必ず取り付けてください。
- 取り付けないと水漏れ調整ができません。止水栓の取付場所はお客様にお伝えください。
- 減圧弁を接続する前に、片ナット止水栓出口に「水受け」を設けて通水し、管路内のゴミや鉄クズ、砂をきれいに洗い流してください。

ゴミや鉄クズ、砂が、減圧弁や本体に入ると、故障や水漏れの事故につながるおそれがあります。

注意

- 給湯管には絶対に配管しないでください。
- ※片ナット止水栓はお客様が開閉(調整)可能な位置に接続してください。

手順-4 カラン(電子水栓)の取付

1) カラン(電子水栓)の設置位置を決めたら超硬ホールソー等でカウンターに取付穴をあける。

※取付穴径は約36~38mmで、適応天板の厚さは、8~30mmです。

※穴あけ作業後はくずをきれいに取り除いてください。

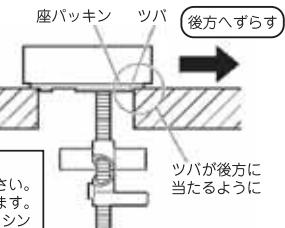
注意

- カラン(電子水栓)の上下の吐水口からの吐水が、シンク内に流れ、既設の水栓、吊り戸棚などに当たらない位置に設置してください。
- カウンターの材質にあった工具を使用して、穴あけを行ってください。
- 穴あけ後、バリやエッジをヤスリなどできれいに取り除いてください。

2) 上面フランジのツメを閉じた状態にして、ネジ穴が正面を向くようにして、取付穴に入れる。

※座パッキン(白)は、上面フランジに貼付していないとシンク(流し台)下への水漏れの原因になりますので、確認してください。

3) カウンターの取付穴の中心になるように、位置決めする。

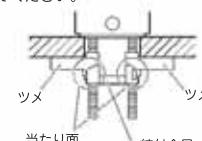


注意

- 上面フランジに浮きがないように注意してください。浮きがあるとシンク下(流し台下)に水が漏れます。
- 後方に当たないとカラン(電子水栓)がガタツキ、シンク下(流し台下)への水漏れのおそれがあります。

注意

- 左右のツメが確実に開くように締付金具の当たり面に、当ててください。ツメが開ききってない場合は、指でツメを開いてください。



※ツメを確実に開く



4) 上面フランジを手で押さえながら、六角レンチで六角ボルトを左右均等に、交互に締め付けてください。

5) 六角レンチを横にして、六角ボルトを力一杯(1回転)増し締めして、上面フランジを確実に固定してください。

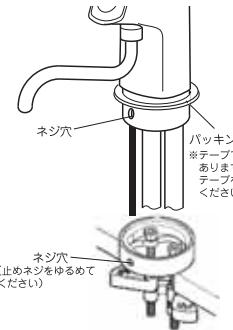
※電動ドライバーでは、2.0~4.0N·m(20~40kgf/cm)で、締め付けてください。高回転はやめてください。

注意

- しっかりと締めてください。水栓のガタツキや水のしみ込みの原因になります。

手順-4 カラン(電子水栓)の取付 (つづき)

6) カラン(電子水栓)を上面フランジに取り付ける。

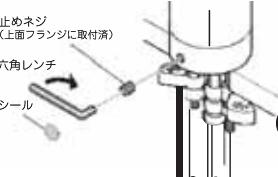


- ① カランコード 1本と電解水素水・サンホース(各1本)を、上面フランジに通す。
※コードを先端のコネクタに気をつけながら通してから、電解水素水ホースとサンホースを通します。
- ② カランのネジ穴と上面フランジのネジ穴が合うように、はめ込みます。

注意

- カラン底面にパッキン(黒)が、付いていることを確認してください。
- コード先端のコネクタは、無理に力を加えると破損するおそれがあります。
- 上面フランジにカランを取り付ける際、コードやホースの挟み込み・折れ・ねじれに注意してください。

7) カラン(電子水栓)と上面フランジを止めネジで確実に固定する。



- ① カランを押さえながら、六角レンチで止めネジを締め付けます。
- ② 付属の丸シール(銀色)を貼り、ネジ穴を隠します。

注意

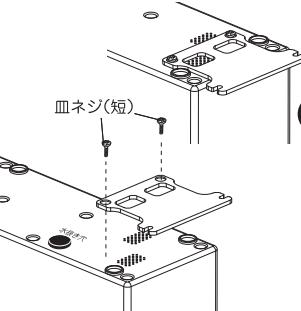
- カランがガタつかないようにしっかりと上面フランジに押しつけながら、止めネジを固定してください。
- カランにガタツキがあると、シンク下(流し台下)に水がしみこみます。

注意

- カラン(電子水栓)の上下の吐水口からの吐水が、シンク内に流れる位置に設置してください。シンク後板や、シンクポケット(石けん、洗剤入れ)、既設の水栓、吊り戸棚などに当たらない場所に設置してください。
- ホースやコードを、折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない。水漏れや断線の原因になります。
- 天板やシンク(流し台)に穴をあけるときは、屋内配管に傷を付けない。万一、水漏れが起きると、大きな補償問題になることがあります。
- 凍結のある場合には設置しない。整水器本体、カートリッジ等が凍結して破損し、水漏れするおそれがあります。
- 壁面取付タイプの水栓箇所には、取り付け出来ません。配管が不明確なので、取付できなかったときに補償問題になることがあります。
- カラン(電子水栓)の先(トップ)、アンダータップ)に、他の機器を接続しない。水漏れや機器の故障の原因になります。

手順-5 本体の固定(本体固定セット)

・ 整水器本体の底面に、付属の本体固定板をネジ締めをする。

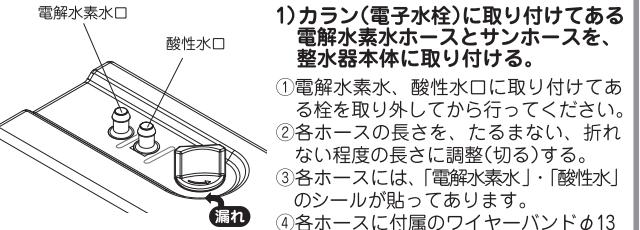


注意

- 本体固定板を取り付ける際は、本体を逆さにする必要がありますので、取扱いに注意してください。
- ネジは2種類(短、長)同梱しています。短い皿ネジを使用してください。
- ネジ締めが緩いと、固定板よりネジの頭が出る為、設置箇所の床面を傷つけるおそれがあります。

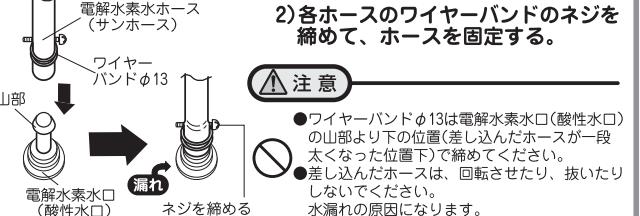
手順-6 電解水素水・サンホースの接続

1) カラン(電子水栓)に取り付けてある電解水素水ホースとサンホースを、整水器本体に取り付ける。



- ① 電解水素水、酸性水口に取り付けてある栓を取り外してから行ってください。
- ② 各ホースの長さを、たるまない、折れない程度の長さに調整(切る)する。
- ③ 各ホースには、「電解水素水」・「酸性水」のシールが貼ってあります。
- ④ 各ホースに付属のワイヤーバンドφ13を通し、各口に差し込む。

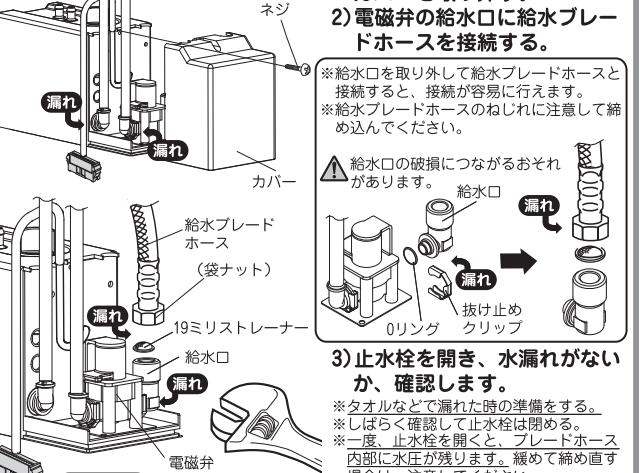
2) 各ホースのワイヤーバンドのネジを締めて、ホースを固定する。



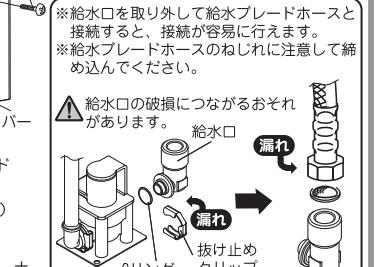
- ワイヤーバンドφ13は電解水素水口(酸性水口)の山部より下の位置(差し込んだホースが一段太くなった位置下)で締めてください。
- 差し込んだホースは、回転させたり、抜いたりしないでください。水漏れの原因になります。

手順-7 給水ブレードホースの接続

1) 整水器本体のネジを外して、カバーを取り外す。



2) 電磁弁の給水口に給水ブレードホースを接続する。



3) 止水栓を開き、水漏れがないか、確認します。

- ※タオルなどで漏れた時の準備をする。
- ※しばらく確認して止水栓は閉める。
- ※一度、止水栓を開くと、ブレードホース内部に水圧が残ります。緩めて締め直す場合は、注意してください。

注意

- 19ミリストレーナーを忘れずに入れてください。水漏れの原因になります。
- スパナ等で締め込む際は、給水口や袋ナットの面取り部分を、スパナ等で確実におさえ、締め込んでください。おさえが悪いと面取り部分や、給水口を破損するおそれがあります。

手順-11 初期動作の確認

- 1) 止水栓を開き、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 2) カラン(電子水栓)の液晶が点灯し、起動音(ドレミ)が鳴るのを確認します。
- 3) 表示(液晶:緑色)、動作に問題なければ、カランの「出/止」ボタンを押して通水、「出/止」ボタンを押して止水、数回繰り返します。
- 4) 通水時に各部(漏れ箇所)の水漏れがないことを、再度確認してください。
- ※手順-3(4箇所)・手順-6(3箇所)・手順-7(6箇所)・手順-8(2箇所)
- 4) 手順-7で取り外したカバーを外したネジを使用してカバーを取り付けます。

手順-8 カートリッジの接続

1) カートリッジを整水器本体のカートリッジベースに入れる。

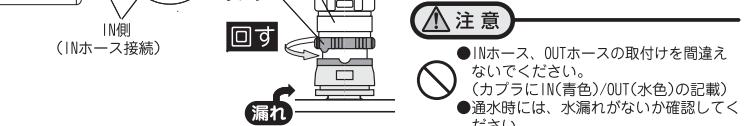
※カートリッジは、右図の様に、カートリッジのIN側・OUT側の向きを合わせて、入れてください。

2) カートリッジに、INホース(カプラ青色)・OUTホース(カプラ水色)のカプラを差し込んだ後、ロックリングを回してロックしてください。



3) 止水栓を開き、水漏れがないか、確認します。

※しばらく確認して止水栓は閉める。



- INホース、OUTホースの取付けを間違えないでください。(カプラにIN(青色)/OUT(水色)の記載)
- 通水時には、水漏れがないか確認してください。

注意

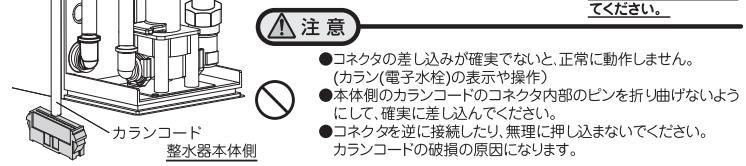
手順-9 カランコード(コネクタ)の接続

・ 整水器本体から出たカランコードと、カラン(電子水栓)コードを接続する。

※各コードのコネクタとコネクタのツメ部の位置を合わせて差し込んでください。



奥まで確実に差し込み、コネクタのツメが確実に掛かっているか、確認してください。



- コネクタの差し込みが確実でない、正常に動作しません。(カラン(電子水栓)の表示や操作)
- 本体側のカランコードのコネクタ内部のピンを折り曲げないようにして、確実に差し込んでください。
- コネクタを逆に接続したり、無理に押しまでください。カランコードの破損の原因になります。

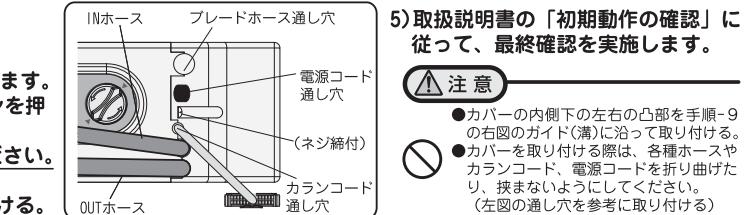
手順-10 本体の固定(本体固定セット)

・ 整水器本体を、設置箇所の床面にネジ締めをする。



注意

- 本体と壁面との間に隙間(5mm以上)を設けてください。
- 既設の屋内配管等をキズつけないようにしてください。



5) 取扱説明書の「初期動作の確認」に従って、最終確認を実施します。

- カバーの内側下の左右の凸部を手順-9の右図のガイド(溝)に沿って取り付ける。
- カバーを取り付ける際は、各種ホースやカランコード、電源コードを折り曲げたり、挟まないようにしてください。(左図の通し穴を参考に取り付ける)